

廿日市市商工業情報

2011

廿日市市環境産業部商工労政課

は じ め に

本市も、社会的現象による少子高齢化の進行や人口減少社会到来、地球規模の環境問題や世界規模による景気の低迷の影響を受ける一方で、2度の市町村合併により島しょ部から山間部まで、多様の自然や世界遺産を有するまちへと変貌をとげ、産業構造についても地域ごとに様々な特性を有するまちへと変化しました。

こうした状況を踏まえ、地域経済の活性化を図ることが重要な課題のひとつであるとし、「市の強みを活かす」、「地元消費を活かす」、「地元雇用を伸ばす」、「地域性に対応する」の4つの基本方針に基づき、平成20年3月に商工業活性化ビジョンの提言を受け、産官学の関係者で構成する「産業振興協議会」が発足しました。

また、本市の上位計画である平成24年度からの第5次総合計画後期計画において前期計画（平成21年度から）に引き続き「盛んな産業といろいろな働き場があり成長するまちに」を政策目標の一つとして掲げています。

本書は、こうした計画の事業の一つとして商工業者や、創業・起業を目指す市民の皆様にとって、ビジネスチャンスのきっかけになればとの思いから、本市の商工業を中心とした産業を、統計データを基に特徴を分かりやすく説明するとともに、「商工業活性化ビジョンの概要」、「中小企業、創業・起業への支援の取り組み内容」、「挑戦する地元中小企業」や「キラリと輝く起業家」を紹介しています。

また、商工会議所、商工会や金融機関をはじめとした支援機関においては、支援施策を情報提供のツールとして活用いただければ幸いです。

今後も、こうした情報提供を続けてまいりますので各種商工業振興施策の推進にご協力をお願いするとともに、編集へのご協力ご意見もよろしくお願いいたします。

最後に、本書に編集に当りまして原稿を寄せていただきました関係者の皆様に心からお礼を申し上げます。

平成24年3月

廿日市市環境産業部
(商工労政課)

目 次

1. 数字でみる廿日市市の商工業	1
(1) 人口と世帯	2
(2) 就業人口	3
(3) 産業構造	4
(4) 工 業	6
(5) 商 業	7
(6) 農林水産業	8
(7) 観 光	9
2. 動きだした商工業活性化ビジョン	11
3. 挑戦する地元中小企業の取組み	17
(1) はつかいち発・新商品	18
[はつかいち商工業施策] 廿日市市新商品開発補助事業	22
(2) 挑戦する地元中小企業	23
[はつかいち商工業施策] 広島工業大学研究室訪問事業	28
4. 廿日市市のキラリと輝く起業家たち	33
[はつかいち商工業施策] 廿日市市創業支援施設「しゃもじんキューブ」	38
[はつかいち商工業施策] 創業・起業支援講座「しゃもじん創業塾」.....	40
資料 : 廿日市市の産業支援施策・制度	47

1. 数字でみる廿日市市の商工業

さまざまな統計データをもとに、廿日市市の人口や産業の特性、地域産業の概要等をわかりやすく紹介します。

(1) 人口と世帯

① 人口が減少に転じ、少子高齢化が進行

廿日市市の人口は、平成 22 年の国勢調査によると約 11 万 4 千人です。市域内の人口は、昭和 50 年以降年々増加し、平成 2 年に 10 万人を超えました。その後は増加幅が小さくなり、平成 22 年の国勢調査では減少に転じました。

人口の年齢構成を県内の市部（12 市）で比べると、15 歳未満の割合は東広島市、福山市、広島市に次いで 4 位、15～64 歳の割合は東広島市、広島市に次いで 3 番目と上位に位置しています。しかし、人口の増加傾向が落ち着いた平成 7 年以降は、65 歳以上の割合が上昇し、15 歳未満の割合が徐々に低下しており、少子高齢化の進行がみとめられます。

■人口の推移



資料：総務省統計局「国勢調査報告」 各年 10 月 1 日現在

② 転入・転出による流動率が比較的高く、世帯の7割が核家族

人口の増減に影響する転入・転出を市部で比べると、総人口に対する転入者数の割合は、広島市、江田島市、東広島市に次いで 4 番目、転出者数の割合は、江田島市、広島市、東広島市、大竹市に次いで 5 番目です。いずれも上位であり、転入・転出による人口の流動率が比較的高いことが分かります。なお、総人口に対する出生数の割合は 7 番目、死亡数の割合は最下位の 12 番目です。

世帯は、全体の約 7 割が核家族世帯（夫婦、夫婦＋子ども、ひとり親＋子ども）です。世帯数に占める核家族世帯の割合は、市部で最も高く、県全体（23 市町）では熊野町に次いで 2 番目です。一方、単独世帯や 65 歳以上のいる核家族世帯、高齢夫婦世帯、高齢単身世帯の割合は下位に位置しています。

※文章中の順位は総務省統計局「統計でみる市区町村のすがた 2011」のデータに基づいています。

(2) 就業人口

① 就業者 56,000 人の8割が雇用者で、半数は市外へ通勤

廿日市市の15歳以上就業者数の8割が、会社・団体・個人や官公庁に雇用されている雇用者（役員でない人）です。この割合は市部で最も高く、県全体では海田町、坂町、府中町に次いで4番目です。雇用者は、いずれかの時期に「退職」を迎えると考えられます。

従業地に注目すると、就業者の半分に当たる52%が市外へ通勤しています。市外通勤の割合は市部で最も高く、逆に市内（自宅を含む）で仕事をしている人の割合は最も低くなっています。

また、常住人口に市外から通勤・通学してくる人口を足し、さらに市外へ通勤・通学する人口を引いた昼間人口は、総人口に対して87%と人口が市外へ流出している状態です。これも市部では最も低い割合であり、県内全体でも22番目です。

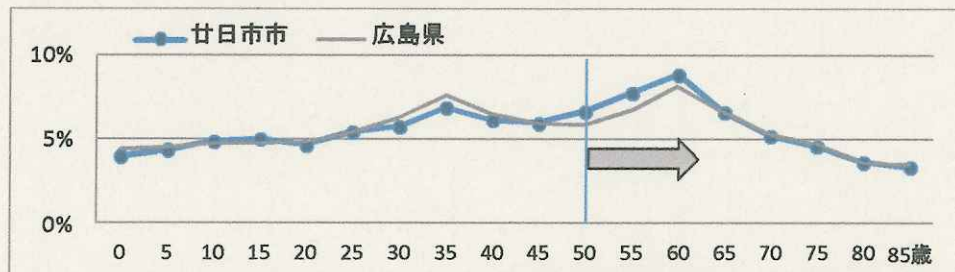
※文章中の順位は総務省統計局「統計でみる市区町村のすがた 2011」のデータに基づいています。

② Over50'S が高齢者層や退職シニアとして台頭

廿日市市の人口は、いわゆる団塊の世代を含む50代・60代の年齢層の割合が突出しています。例えば、平成22年の国勢調査では、50～64歳の5歳ごとの各層が人口に占める割合が県全体の値を上回っています。就業人口の年齢構成にも同じ特徴があり、仮に退職期を65歳と設定すると、5年毎に約7千人規模の就業者が退職期を迎えることになります。

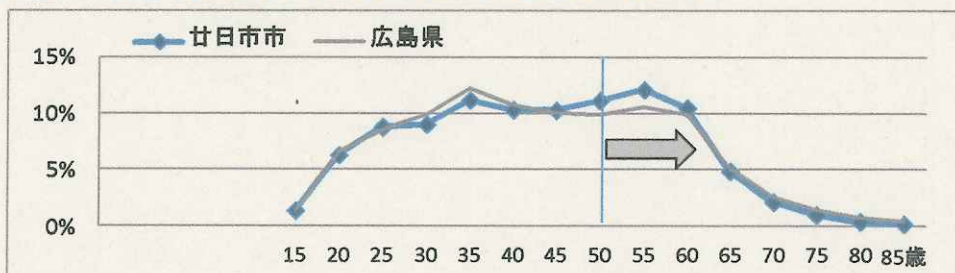
これまで15～64歳の生産年齢人口や就業人口としてカウントされてきた一定規模の年齢層が、65歳以上の高齢者となり、仕事をしなければ非労働力人口となり就業人口にカウントされなくなります。つまり、一定の規模をもつ「Over50'S」（50歳以上の層）が、間もなく高齢者層や退職シニア層として出現するのです。

■人口の年齢別構成比の比較（廿日市市／県）



資料：総務省統計局「平成22年国勢調査報告」

■就業人口の年齢別構成比の比較（廿日市市／県）



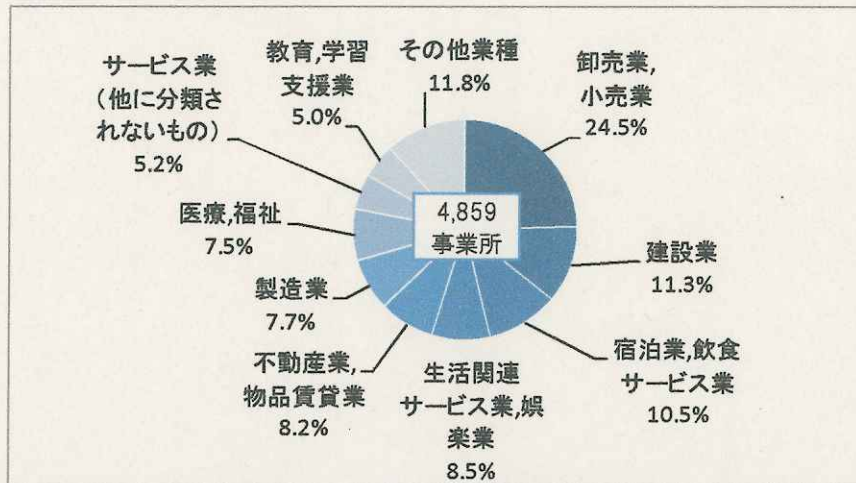
資料：総務省統計局「平成22年国勢調査報告」

(3) 産業構造(事業所数と従業者数)

① 事業所数は「卸売・小売、建設、宿泊・飲食サービス」がトップ3

市内の事業所数は、平成 21 年の経済センサスによると約 5 千事業所（事業内容等不詳を含む）です。産業別では、卸売業、小売業の割合が最も高く、次いで建設業、宿泊業、飲食サービス業が続いています。上位 3 つの業種が、全体のほぼ半数を占めています。

■事業所数の産業別内訳



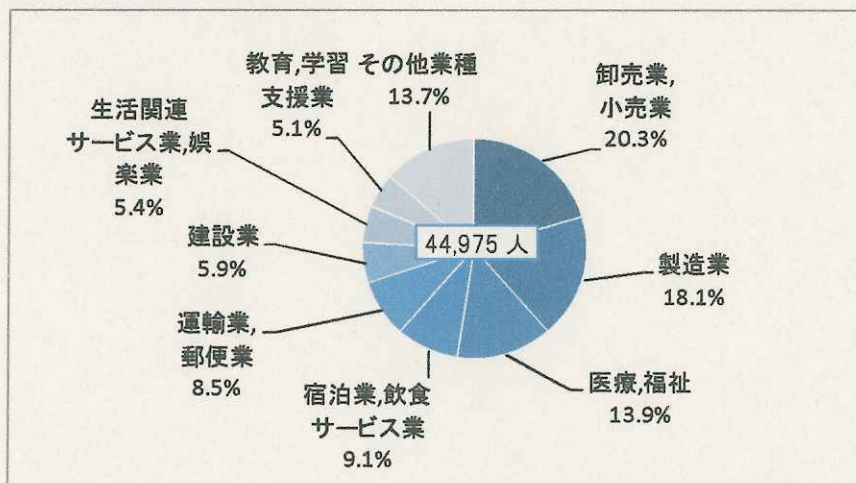
資料: 総務省統計局「平成 21 年経済センサス」

② 従業者数は「卸売・小売、製造、医療・福祉」がトップ3

市内の従業者数は、平成 21 年の経済センサスによると約 4 万 5 千人です。産業別では、事業所数が多い卸売業、小売業の従業者が最も多く、次いで製造業、医療、福祉が続いています。この上位 3 業種で、全体のほぼ半数を占めています。

また、全体に占める宿泊業、飲食サービス業、生活関連サービス業、娯楽業の割合は、県内で最も高くなっています。

■従業者数の産業別内訳



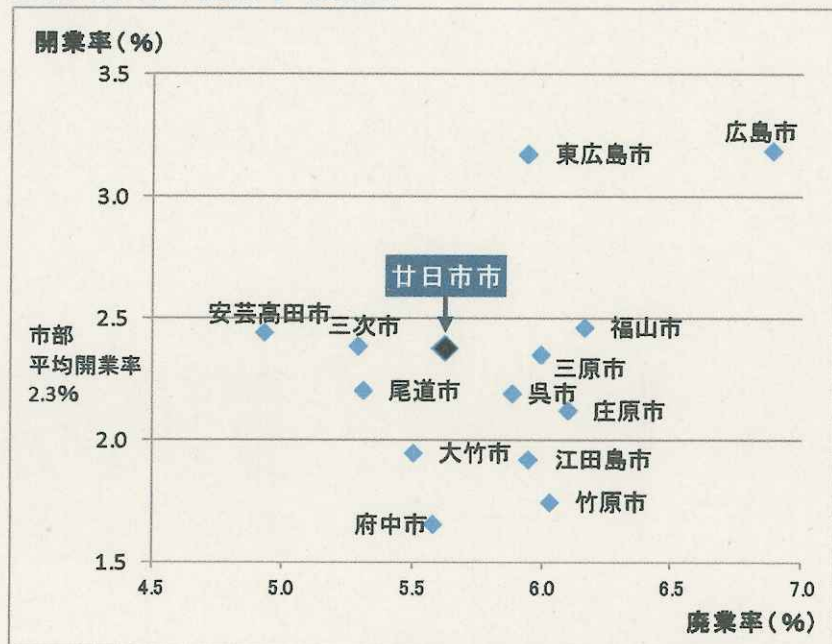
資料: 総務省統計局「平成 21 年経済センサス」

③ 開業率は県内市部の平均水準、廃業率はやや低い水準

市内の民営事業所数は、平成 21 年の経済センサスによると 4,528 事業所です。平成 18～21 年の年平均開業数は 116 件、年平均廃業数は 248 件で廃業数が上回っています。

開業率・廃業率を県内の市部と比べると、廿日市市の開業率（グラフ縦軸）は 2.38%で、市部の平均水準にあります。廃業率（グラフ横軸）は、市部平均を下回る 5.63%で、やや低い水準に位置しています。

■ 県内市部の開業率・廃業率



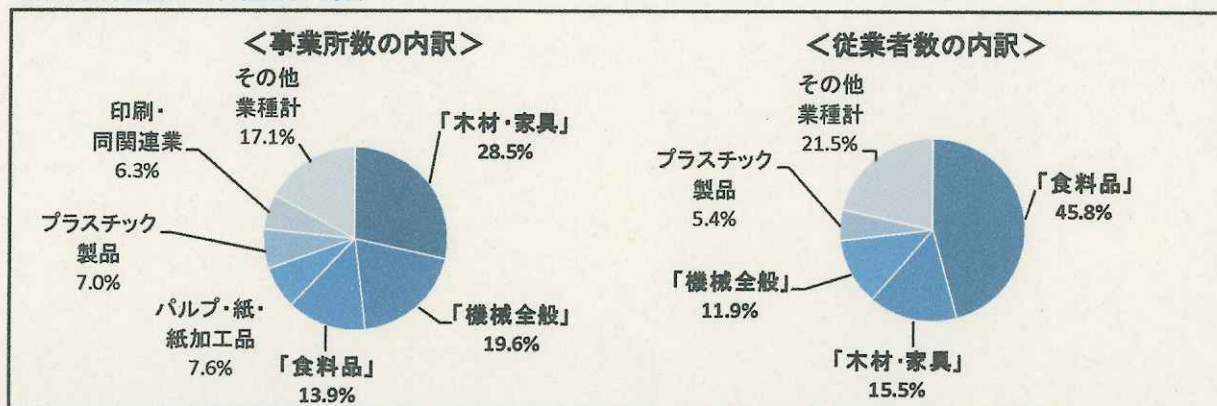
資料：総務省統計局「平成 21 年経済センサス」

(4) 工業

① 三大製造業は「食品」・「木材」・「機械」

市内の製造業は、平成 22 年の工業統計（速報）によると 158 事業所（従業者 4 人以上）、従業者数は 6,355 人です。業種別の内訳は、事業所数では木材・木製品製造業の割合が最も高く、家具・装備品製造業を合算すると全体の 3 割に相当します。また、各種の機械製造業を合算すると事業所数の約 2 割に相当します。従業者数では、食料品製造業が 4 割以上を占めています。業種内訳で各指標の柱となっている「食品」・「木材」・「機械」が市内の三大製造業です。

■主要指標の業種別内訳

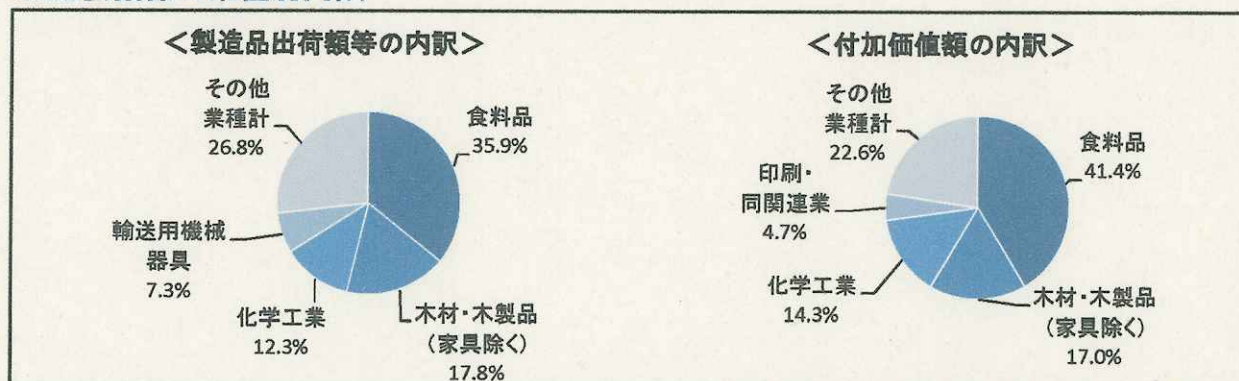


※「食料品」：食料品製造業、「木材・家具」：木材・木製品製造業（家具を除く）、家具・装備品製造業を合算、「機械全般」：はん用、生産用、業務用、電気、輸送用の各機械器具製造業を合算
資料：経済産業省「平成22年工業統計（速報）」より作成

② 出荷額や付加価値額の約4割は食料品製造業

市内の製造業の製造品出荷額等は、平成 22 年の工業統計（速報）によると 1,503 億円、付加価値額は 555 億円です。業種別の内訳は、食料品製造業が製造品出荷額等の 3 割強、付加価値額の 4 割を占めていることが注目されます。事業所数の多い木材・木製品製造業（家具を除く）が 2 割弱で続いています。出荷額や付加価値額においては「食品」・「木材」・「機械」の三大製造業のなかでも食料品製造業のウェイトが高いことが分かります。

■主要指標の業種別内訳



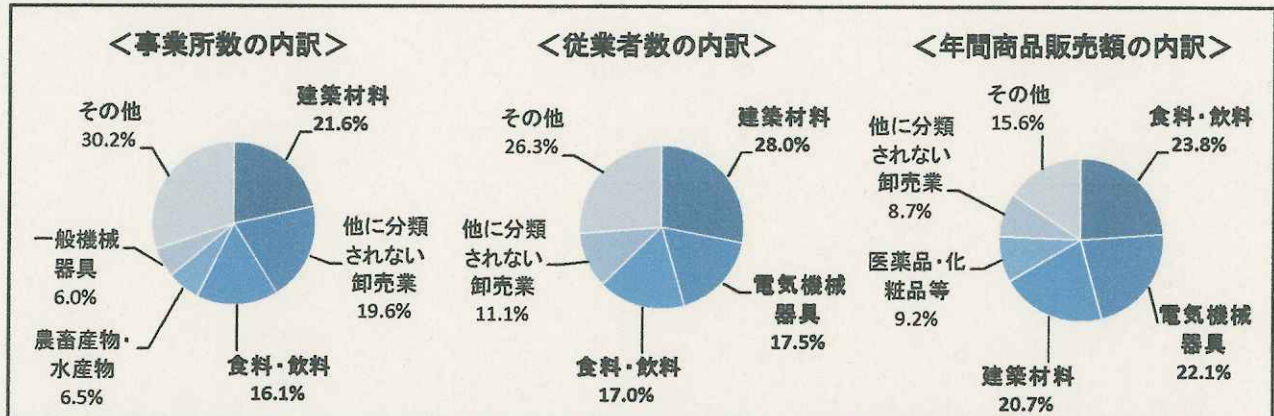
資料：経済産業省「平成22年工業統計（速報）」より作成

(5) 商業

① 卸売業の柱は「建設材料、食料・飲料、電気機械器具」

市内の卸売業は、平成 19 年商業統計によると 199 事業所、従業者数は 2,512 人、年間商品販売額は 1,529 億円です。業種別の内訳は、建設材料、食料・飲料、電気機械器具の 3 業種が柱となっています。

■主要指標の業種別内訳



資料: 経済産業省「平成 19 年商業統計調査」

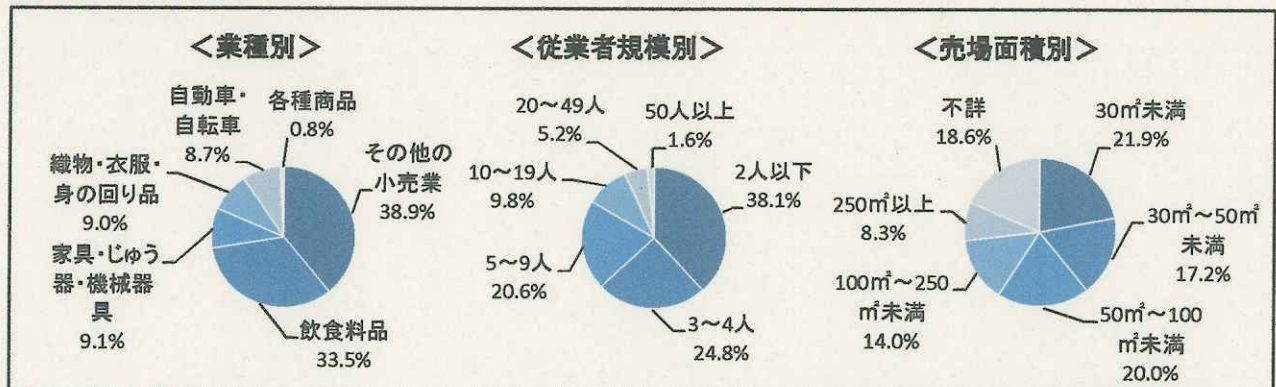
② 小売業は、半数が商店街に立地し、4割が従業者2人以下

市内の小売業は、平成 19 年商業統計によると 871 事業所、従業者数は 6,225 人、年間商品販売額は 975 億円、売場面積は 11 万 4 千㎡です。業種別の内訳は、各指標において、その他の小売業と飲食料品小売業の 2 業種が中心となっています。

業態の内訳は、衣料品・食料品・住関連の専門店が 6 割を占めています。また、立地環境の内訳は、商業集積地区（商店街）が半数を占め、次いで住宅地区が続いています。

事業所の規模に注目すると、従業者規模は 6 割が 5 人未満、なかでも全体の約 4 割は 2 人以下と小規模な事業所が多くなっています。また、売場面積でも 100 ㎡未満の事業所が過半数を占めています。なお、市内の大規模小売店は 13 事業所です。

■事業所数の内訳



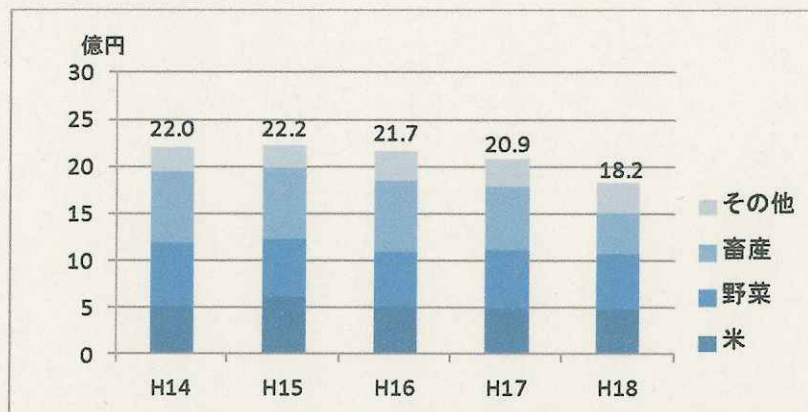
資料: 経済産業省「平成 19 年商業統計調査」

(6) 農林水産業

① 農業の三本柱は「野菜・米・畜産」

市内の農業では、佐伯・吉和地域を中心に野菜・水稻・生乳等が生産されています。平成18年の生産農業所得統計によると、農業算出額の総額は18億2千万円で、野菜・米・畜産が三本柱です。

■農業算出額の推移

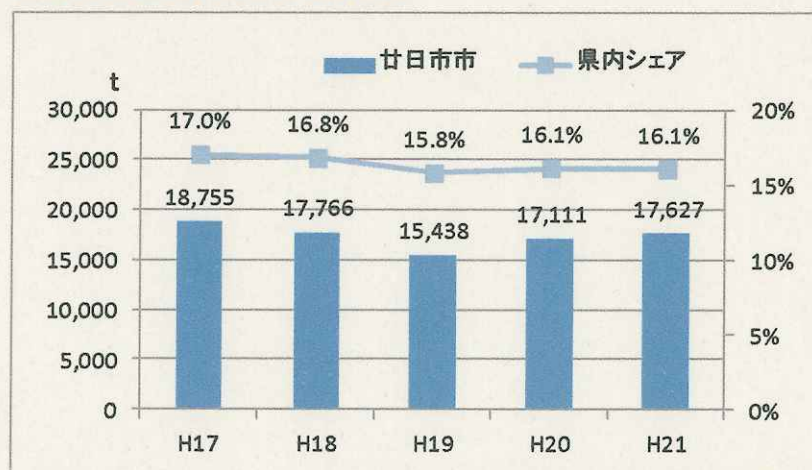


資料：農林水産省「生産農業所得統計」

②「かき・あさり」は広島県の代表ブランド、養殖かきは県内シェア16%

市内の水産業では、大野・宮島地域を中心に生産されているカキ、アサリなどが広島県を代表するブランドとなっています。広島県農林水産統計調査によると、養殖かきの収穫量（殻つき）は約1万7千t、県内シェアは約16%です。

■かき収穫量(殻つき)の推移



資料：中国四国農政局「広島県農林水産統計調査」

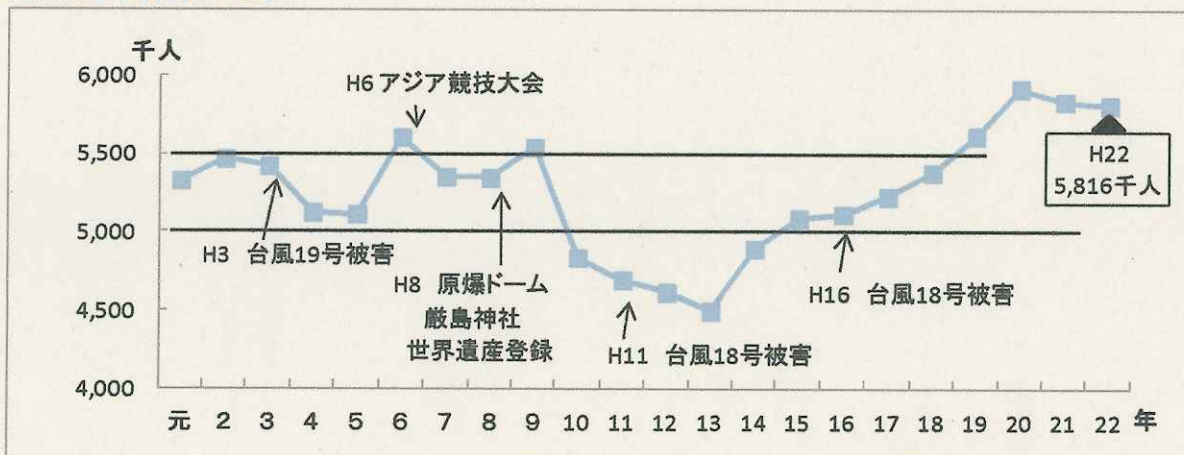
(7) 観光

① 宮島来島者は過去最多(H21年)、総観光客数は微減傾向へ

廿日市市の総観光客数は、平成22年の広島県観光客数の動向によると581万6千人で、県内では第4位です。近年増加傾向が続いてきましたが、平成21年以降は微減傾向に転じています。また、宮島来島者数は、平成21年に過去最多の347万6千人となっています。

過去の推移をみると、平成元～9年までは500万人以上で推移し、特にアジア競技大会開催(H6)、厳島神社の世界文化遺産登録後(H8)には550万人を突破しました。しかし、平成10～13年にかけては台風被害などの影響から500万人以下と低迷しました。その後、平成14年以降は広島県大型観光キャンペーン(H16-17)や世界遺産登録10周年事業(H18)などの効果から増加傾向が続き、平成20年には592万人と600万人に迫っていました。

■総観光客数の推移



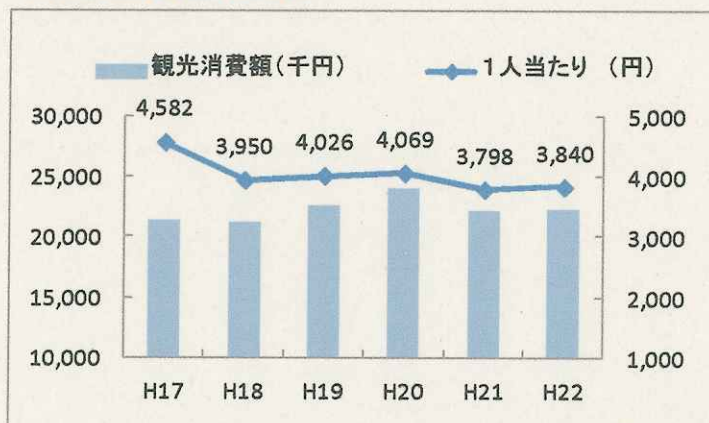
資料：広島県「広島県観光客数の動向」

② 観光消費額は1人あたり4千円未満と低迷

市内を訪れた観光客の観光消費額（交通費・宿泊料・みやげ品代・飲食代・入場料など）の総額は、平成22年の広島県観光客数の動向によると、2,233万円でした。

観光客1人あたりでは3,840円と4千円を割り込み、県の平均値(5,433円)を下回っています。

■観光消費額の推移



資料：広島県「広島県観光客数の動向」

2. 動きだした商工業活性化ビジョン

廿日市市が商工業の活性化や産業の振興をめざして展開している施策を紹介します。

廿日市市の商工業活性化の歩み

●市域の拡大によって多様化した地域特性と産業特性

廿日市市は、平成の合併により面積が約 10.2 倍、人口が約 1.6 倍へと拡大し、地理的にも島しょ部から中山間部まで様々な特性を持つまちへと変貌を遂げました。産業構造についても、地域ごとに様々な特性を有することとなりました。なかでも廿日市市の地域経済を大きく左右する商工業の活性化を図り、経済の自立的発展を促すことは、最も重要な課題のひとつでした。

●平成の合併を商工業活性化の契機に！

そこで廿日市市では、平成 19 年 9 月に「廿日市市商工業活性化委員会」を発足し、商業、工業、観光、雇用、産業間連携などの視点から、商工業発展の戦略や方向性を示し、地元企業の実態やニーズを踏まえた実現性の高い具体的なプロジェクトを打ち出す“商工業活性化ビジョン”の策定を求めました。

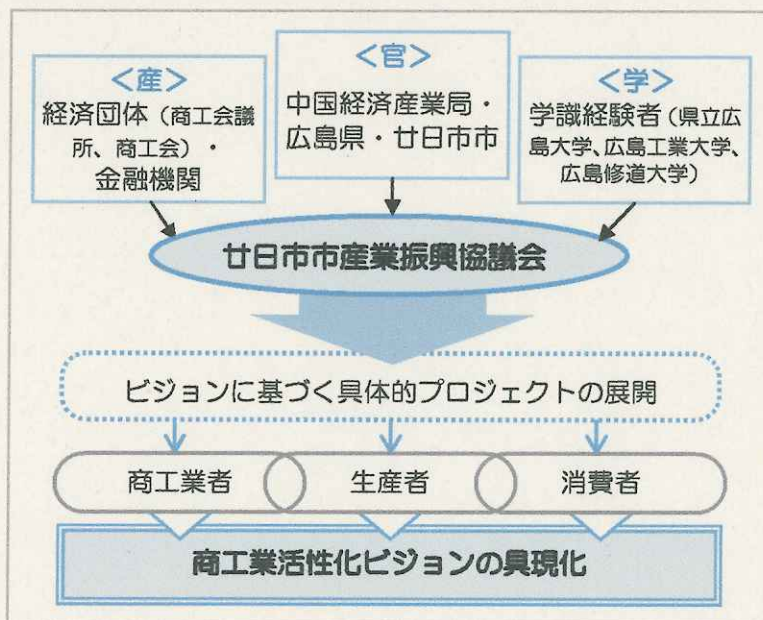
●南北軸を活かした地域課題の克服と商工業活性化

同委員会では、各種統計資料及び事業所アンケート・ヒアリング調査結果から、「市の強みを生かす」、「地元消費を伸ばす」、「地元雇用を伸ばす」、「地域性に対応する」の 4 つの基本方針に基づく基本戦略と、その実現に向けた推進体制の確立と具体的なプロジェクトの展開を盛り込んだ「廿日市市商工業活性化ビジョン」を平成 20 年 3 月に策定し、市長へ提言しました。

●産・官・学の連携で、官民一体となったビジョン推進

この提言を受け、廿日市市では産業に関わる関係機関の連携やネットワークの構築を支援していくことを目的に、産・官・学で構成する「廿日市市産業振興協議会」を平成 22 年 3 月に設置しました。

現在廿日市市では、同協議会との連携のもと、ビジョンに基づく具体的なプロジェクトを実施し、各事業を通じて市内商工業者や市民との交流連携を深め、ビジョンの具現化を推進しています。



「廿日市市商工業活性化ビジョン」の概要

基本テーマ：副都心経済圏の確立に向けた集中革新・交流連携による商工業の活性化

【基本方針】

① 廿日市市の強みを活かす

県都広島市に隣接する人口集積都市
世界遺産・日本三景を有する国際的な歴史ある観光地
瀬戸内海から中国山地までの恵まれた農林水産品・伝統工芸品
国・県の産業支援機関や大学が近接

② 地元消費を伸ばす

市外流出している商業マネーの地元消費を促進
機会損失している観光マネーの消費額の拡大

③ 地元雇用を伸ばす

雇用創出効果の高い製造業での雇用創出
退職シニアや女性等の経験やノウハウを活かした起業促進

④ 地域性に対応する

都市部：退職シニアの急増に伴う受け皿づくり
中山間地域：人口減少・少子高齢化に伴う商業サービス強化
島しょ地域：継続する観光地としての磨き上げ

【戦略領域】

地域経済に結びつく
体験・滞在型の
観光産業の発展

地域資源を活かした
賑わい拠点の開発
による地元消費拡大

食料品・木材・機械
製造業の成長・底上げに
よる外貨獲得・雇用創出

地元での就業支援・
起業促進の仕組みづくり

中山間地域における
地域商業の機能強化

【戦略的施策と具体的な取り組み】

賑わいのあるまち「はつかいち」

- 賑わい拠点創出戦略
- 地域商業再生戦略

千客再訪のまち「はつかいち」

- 地域資源を活かす修学旅行ブランド化戦略
- 世界遺産・宮島観光魅力アップ戦略

食のまち「はつかいち」

- 食関連産業の成長・底上げ戦略
- 食体験の観光ビジネス戦略

地場産業・新産業支援のまち「はつかいち」

- 地場産業の競争力強化戦略
- 企業誘致等による雇用創出戦略

新しいビジネス創出のまち「はつかいち」

- コミュニティビジネス創出戦略
- 地域の人材活用・育成戦略

【推進体制づくり】

プラットフォーム機関の設置検討／産業人材の育成／地域経済の実態把握・情報提供

商工業活性化ビジョンに基づくプロジェクトの展開

【廿日市市産業振興協議会によるプロジェクト実施】

産業振興施策のあり方検討／産業に関わる関係機関の連携・ネットワーク構築支援
3部会の具体的プロジェクトへの助言／市の商工業施策との連携・評価

新商品開発部会

テーマ：地域資源を活かした新商品開発

(目的)

- 地域資源を活かした商品開発の促進
- 地元商工業者による新商品・サービス開発の促進

(取組内容)

- ・地域資源活用や産学官連携による新商品等の開発検討
- ・地元事業者による食・木工等の商品開発・事業化を促進

市内事業者の連携とネットワークを支援します！

【広島工業大学研究室訪問事業】

◆新商品開発、新事業展開、販路開拓などにつながる、市内事業者の連携やネットワークづくり

◆広島工業大学の研究室や研究者との協力関係の構築

(P.28 参照)



にぎわい創出部会

テーマ：中山間地域でのにぎわい創出

(目的)

- 市内中山間地域におけるにぎわい創出
- 中山間地域版ライフスタイルセンターの可能性開拓

(取組内容)

- ・佐伯地区における企業・商店や生産者、市民等による地域活性化に資する新たなビジネスの創出検討
- ・津和野街道、かかし等の地域資源を活かした都市農村交流型ビジネスの促進

地域資源活用部会

- ・地域資源の評価や活用、補助事業の導入等のアドバイス
(商品開発部会・にぎわい創出部会における取組みへの助言・評価)

廿日市市では、商工業活性化ビジョンの提言に基づき、複数の課題を包括的に解決し、地域経済への効果が期待されるプロジェクトを廿日市市産業振興協議会と連携して実施しています。

【廿日市市によるプロジェクト実施（創業・起業支援）】

市内での創業・起業の促進／市内事業者の新商品開発・新事業開拓等の促進
コミュニティビジネスの創出／地域の人材活用・育成

【交流サロン】

□市内で起業化をめざす経営者や生産者、市民等の交流の場

※起業化とは？
新商品開発
新事業開拓
創業等

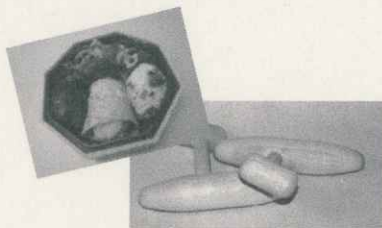
□市内事業者の情報交換と異業種交流の場

□2部会のテーマと連携しながら情報交換や意見交換を実施

市内事業者のステップアップを支援します！

【新商品開発補助事業】

- ◆地元事業者等による新商品開発費の補助
- ◆地域資源活用や産学官連携のコーディネート
(P.22 参照)



新たなビジネスへの挑戦をサポートします！

【創業支援施設・しゃもじんキューブ】

- ◆創業の初期段階における創業スペースの提供
- ◆インキュベーション・マネージャーによる経営サポート
- ◆入居者間、市内事業者・行政等との交流やネットワークづくり
(P.38 参照)



創業・起業をめざすさまざまな人材を発掘・育成します！

【創業・起業支援講座・しゃもじん創業塾】

- ◆市内での創業や事業化に興味のある若者や女性、シニア等を対象とした講座
- ◆創業・事業化の実践者の実体験からの学びとワークショップ
- ◆参加者間、市内事業者・行政等との交流とネットワークづくり
(P.40 参照)



